

# 令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

## 「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

**1 調査日** 令和8年4月14日（火）

**2 調査対象** 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

**3 調査内容**

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

**学校名** 品川区立八潮学園

1 定着状況についての概要

|    |                                                              |    |                                                                                          |
|----|--------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2年 | ○「基礎」「活用」とともに目標値を下回っている。各クラス正答率の差が激しく二極化している。                | 3年 | ○正答数に関しては目標値には達している。しかし、文章を書く力に関してはかなり落ち込んでいる。                                           |
| 4年 | ○基礎、活用ともに目標値を下回っている。<br>○漢字の書き取りや文章を書く問題は目標値を大きく下回っている。      | 5年 | ○正答率は全国値を下回っているが、標準スコアの値は昨年度と比べ伸びている。                                                    |
| 6年 | ○文章の読み取り問題は目標値を上回っている。一方で、漢字を書く、漢字を読むことや、文章を書く問題は目標値を下回っている。 | 7年 | ○正答率はおおむね目標値を上回る。言語事項や説明文の分析は得意である一方、文章を書くことは苦手である。                                      |
| 8年 | ○「書くこと」について目標値を下回った。                                         | 9年 | ○領域として「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」、内容として「漢字を書く」ことにおいて正答率が目標値を下回っている。文法に関する事項については理解度が高い。 |

2 具体的な課題

|    |                                                                                                         |    |                                                             |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------|
| 2年 | ○漢字の読み書き、文章を書く問題の正答率が悪かった。どちらも正答率が50%をきっている。                                                            | 3年 | ○文章を構成し、自分の考えを表現する力<br>○漢字の読み、書き                            |
| 4年 | ○相手や目的を意識して、自分の考えを明確にしながら文章を書くことに課題がある。                                                                 | 5年 | ○文章の書き取り、漢字の書き取りに課題がある。文章の要点をとらえて読む力に課題がある。                 |
| 6年 | ○漢字を「書くこと」の能力が、十分に身に付いていない。<br>○自分の考えを文章化することに課題がある。特に、目的や意図に応じて、文章全体の構成や展開を考え、自分の考えとその理由を明確に書くことが課題である | 7年 | ○小学校で学習した漢字の読み書きが定着していない。伝えたいことを明確にして表現することが意識できない。         |
| 8年 | ○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の能力に課題がある。                                                                      | 9年 | ○中学校でなく小学校で学習した漢字が定着していない、また、登場人物の言動の意味について考えて解釈することが苦手である。 |

3 課題の原因として考えられること

|    |                                                                                                         |    |                                                             |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------|
| 2年 | ○漢字を教えるだけで、定着させるための時間が確保できていない。<br>○単語が正しく書けていない。「は」「へ」「を」が正しく使えていない。一文が長くなり伝えたいことがまとまらない。              | 3年 | ○文章の書き取りに関しては、時間が足りなかった。<br>○漢字の読み書きに関しては、漢字を書く機会が減少していること。 |
| 4年 | ○漢字の学習の時間を十分に取れていない。<br>○自分の考えを書くことに苦手意識がある。(無回答が多い)                                                    | 5年 | ○ICTの活用が多いため、文章を書くことの経験が減っていることが原因として挙げられる。                 |
| 6年 | ○ICT 機器を使つての学習が増えているため、文章を書く機会や既習の漢字を繰り返し使う場面が減っている。<br>○生成 AI の普及等により、授業を通して自分の考えを自らの言葉で表現する機会が減少している。 | 7年 | ○既習漢字を活用することや課題に合わせて自分で思考して文章を書く機会が少なく、デジタル機器に頼りがちである。      |
| 8年 | ○新出語句や漢字を実践的に使うことがない。ICT の使用などにより、自分の考えを文章化する機会が減っている。                                                  | 9年 | ○新出漢字を他の用例に広げ、文章に取り入れる機会が少ない。文章を読む際、表面的な事象を捉えるに留まっている。      |

4 課題解決のための方策

|    |                                                                                                                                                                   |    |                                                         |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------|
| 2年 | ○小テストやデジタルドリルでの学習を活かして漢字が定着できるようにする。<br>○日記を書く活動を通して、文章の書き方を身に付けさせる。また、普段の授業の中で語彙が増えるように言葉の意味を指導する。                                                               | 3年 | ○話し合いを通して自分の考えを伝える時間を取る。<br>○漢字テストや宿題等を使用して漢字を書く回数を増やす。 |
| 4年 | ○漢字の使い方やポイントを全員で確認し、漢字の読み書きを定着させる。<br>○自分の考えを文章で書く際に型を示し取り組みやすくする。                                                                                                | 5年 | ○朝学習や宿題等で漢字の学習をする機会を増やす。<br>○読書感想文など、文章を書く活動を行う。        |
| 6年 | ○漢字の反復練習や小テストを繰り返し行うこと、授業でのノートの書き取りやワークシートの記述等で、書く機会を増やす。<br>○正誤に関わらず、自分の考えを文章で書こうとしている児童の努力を認めて部分点をつける。<br>○自分の考えを授業でノートに記述する機会を増やすことや、順序だてて説明するペア学習等を積極的に取り入れる。 | 7年 | ○授業中の音読、語彙を増やす活動を増やす。条件作文演習などで自分の考えを伝えることに慣れさせる。        |
| 8年 | ○新出語句を使用した短文を作るなどの活動を取り入れる。教材に対しての感想や意見などを書く機会を増やす。                                                                                                               | 9年 | ○日常的に語彙を増やす活動、文章の解釈について話し合ったり書いたりする機会を増やす。              |

## 1 定着状況についての概要

|    |                                                     |    |                                                                                         |
|----|-----------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 4年 | ○「基礎」「活用」とともに目標値を下回っている。                            | 5年 | ○全体として目標値を下回っている。「活用」については、若干上回っているが、「基礎」は、下回っている。<br>○「知識・技能」「思考・判断・表現」はともに目標値を下回っている。 |
| 6年 | ○「基礎」「活用」とともに目標値を下回っている。<br>○「知識・技能」は目標値を大きく下回っている。 | 7年 | ○基礎・活用とともに目標値を下回っている。                                                                   |
| 8年 | ○基礎・活用とともに目標値を下回っている。                               | 9年 | ○基礎・活用とともに目標値を下回っている。                                                                   |

## 2 具体的な課題

|    |                                            |    |                                                          |
|----|--------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------|
| 4年 | ○資料をもとに考える問題の正答率が低い。<br>○「基礎」の正答率が低い。      | 5年 | ○地図やグラフ複数の資料などをもとに判断する。<br>○八方位の理解、災害時の対応などの基本的な知識を理解する。 |
| 6年 | ○「国土の自然などの様子」「産業と情報との関わり」の分野の基礎知識が定着していない。 | 7年 | ○「日本の政治」「鎌倉時代、室町時代」の分野の基礎知識が定着していない。                     |
| 8年 | ○「世界の諸地域」「縄文時代～古墳時代」の分野の基礎知識が定着していない。      | 9年 | ○「日本の諸地域」「江戸時代」の分野の基礎知識が定着していない。                         |

## 3 課題の原因として考えられること

|    |                                                   |    |                                                                            |
|----|---------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------|
| 4年 | ○基礎知識が定着していない。<br>○資料を読み取る力が身に付いていない。             | 5年 | ○既習の基本的な知識・技能が十分に定着していない。<br>○資料を読み取る機会が少ないため、資料を読み取り、特徴を捉える力が十分に身につけていない。 |
| 6年 | ○国の位置や地形の名称と位置の知識が定着していない。また、メディアの特徴や特性も理解できていない。 | 7年 | ○該当する問題に関する基礎知識と理解の不足。                                                     |
| 8年 | ○7学年に学習した基礎的な内容の定着が不十分であることと、未修部分があったこと。          | 9年 | ○8学年に学習した内容の基礎的な知識の定着が不十分。                                                 |

## 4 課題解決のための方策

|    |                                                                  |    |                                                                 |
|----|------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------|
| 4年 | ○既習の内容を、授業の中で関連付けながら継続的に指導する。<br>○授業で多様な資料を扱い、読み取りの視点を身に付けさせる。   | 5年 | ○授業内で多様な資料を読み解く活動を取り入れる。<br>○既習の知識・技能が十分に身につくよう繰り返し指導する。        |
| 6年 | ○授業で地図帳を多く使用する場面を設定し、自ら地名などを調べる経験をさせる。<br>○基礎知識の定着を図る時間を授業内に設ける。 | 7年 | ○学習習慣の形成により基礎基本の定着を促進する。<br>○資料の読み取りや思考力・表現力を身に付ける授業を行う。        |
| 8年 | ○基礎基本の定着を図る授業の工夫をする。<br>○資料の読み取りを授業に取り入れる。                       | 9年 | ○基礎基本の定着を図る授業と家庭学習への取り組みを促す。<br>○授業内で資料を読み取ったり、表現する授業を取り入れたりする。 |

1 定着状況についての概要

|    |                                                                     |    |                                                    |
|----|---------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------|
| 2年 | ○「基礎」「活用」とともに目標値を下回っている。各クラス正答率の差が激しく二極化している。                       | 3年 | ○正答率は目標値、正答率よりもやや低い。                               |
| 4年 | ○「基礎」「活用」とともに目標値を下回っている。<br>○観点別正答率についてもすべて目標を下回っている。               | 5年 | ○すべての項目(基礎・活用、領域、観点)で目標値より数値が下回っている。               |
| 6年 | ○数と計算、図形、変化と関係、データの活用どの領域においても目標値を上回っていた。面積、割合においては目標値を10点近く上回っていた。 | 7年 | ○多くの問題において、目標値を上回ることができていた。                        |
| 8年 | ○「知識・技能」は目標値を上回っているが、「思考・判断・表現」に関しては、若干目標値を下回っている。                  | 9年 | ○基礎と活用、観点別においても目標値を上回っている。領域においては図形と関数が目標値を下回っている。 |

2 具体的な課題

|    |                                                                      |    |                                                                       |
|----|----------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------|
| 2年 | ○1けたのたし算ひき算などの基礎的な問題は解けるが、文章題の立式などができない。<br>○数の大小関係や構成について理解ができていない。 | 3年 | ○10000までの数・分数における四則計算の理解が不十分である。                                      |
| 4年 | ○円と球・三角形<br>○割り算 どちらも記述系問題に課題がある。                                    | 5年 | ○図形・データの活用の分野の理解が不十分である。                                              |
| 6年 | ○小数の計算の問題が目標値に対して正答率が低かった。また、多角形と円・合同の作図問題においても目標値に対して正答率が低かった。      | 7年 | ○基本的な分数、小数の計算。グラフの読みとりやデータの活用に課題があった。                                 |
| 8年 | ○負の数の減法、文章から1次方程式を立式すること、回転移動の方法の説明に関しての正答率が低い。                      | 9年 | ○1次関数において、式とグラフの関係、2元1次方程式と解との関係の理解が不十分。図形において多角形の内角の和についての理解が不十分である。 |

3 課題の原因として考えられること

|    |                                                                                 |    |                           |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------|
| 2年 | ○問題文の読み取り方が分かっていない。「いくつ」「ちがいは」などの言葉の意味が理解できていない。<br>○数の大小についての理解が浅い。            | 3年 | ○量的な把握が低下している。            |
| 4年 | ○言語理解力が低く、問題の意図を理解することができていない。                                                  | 5年 | ○基礎・基本が十分に定着できていない。       |
| 6年 | ○小数点の位置が動くルールを理解できていない。<br>○合同の三角形の定義が分かっていない。コンパスや分度器を使用して合同な三角形を作るやり方の理解が不十分。 | 7年 | ○正確に計算すること、用語の理解が不十分である。  |
| 8年 | ○負の数を含む計算になるとミスが起きやすいこと。<br>○文章を読解する能力が低いこと。                                    | 9年 | ○関数に対する苦手意識がある。演習が不足している。 |

4 課題解決のための方策

|    |                                                                                      |    |                                                      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------|
| 2年 | ○文章題を解くときは、言葉に注目させ演算決定のキーワードを捉えさせる。<br>○デジタルドリルの問題を宿題等を出し、復習させる。                     | 3年 | ○朝学習や授業の始めに100マス計算に取り組む。                             |
| 4年 | ○具体物や図を活用して視覚的に捉えさせたり、場面の言語化をさせたりして数や式の意味を丁寧に理解させる。                                  | 5年 | ○作図などの学習で、三角定規・コンパスの復習および習熟を行う。<br>○八潮オリジナル問題集の活用する。 |
| 6年 | ○小数の計算の問題を宿題として取り組ませる。<br>○「小数の計算」の単元学習に際して、AI ドリルのミライシードを用いた家庭学習を実施し既習事項の復習に取り組ませる。 | 7年 | ○正確に計算する反復練習。文章問題を考えて解くことで、応用問題への理解を深めること。           |
| 8年 | ○スモールステップでの反復計算練習を繰り返すこと、また読解力を付けるための文章問題の読み取り練習時間を多く設定すること。                         | 9年 | ○関数が便利で役に立つ場面の紹介。演習問題を増やし、問題の形式に慣れるよう指導に取り組む。        |

## 理 科

### 1 定着状況についての概要

|    |                                                       |    |                                                          |
|----|-------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------|
| 4年 | ○「基礎」「活用」とともに、ほとんどの項目で目標値を下回っている。                     | 5年 | ○教科全体を通して、区平均・全国平均を下回っている。<br>○電気の働きについて、全体的に目標値を上回っている。 |
| 6年 | ○基礎・活用をはじめ、すべての項目において目標値を下回っている。                      | 7年 | ○「生物」「てこ」「水溶液」の分野は目標値から5ポイント以上下回っている。                    |
| 8年 | ○全体的に正答率が目標値を下回っている。<br>○特に、「エネルギー」「生命」の領域の正答率が著しく低い。 | 9年 | ○特に「粒子・生命」の領域が著しく低い。<br>○「基礎」についての正答率が著しく低い。             |

### 2 具体的な課題

|    |                                                         |    |                                                                      |
|----|---------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------|
| 4年 | ○「物の重さ」や「じしゃくのせいしつ」など「物質・エネルギー」の項目の校内正答率が低い。            | 5年 | ○単元「自然の中の水」など、実験結果をもとに現象を説明する力に課題が見受けられる。                            |
| 6年 | ○特にふりこのきまりや電流のはたらきなど、物理分野が目標を大きく下回っている。                 | 7年 | ○生物、化学、物理分野の基礎問題において苦手としている。                                         |
| 8年 | ○基礎となる知識・理解の正答率が低く、領域では「力の性質」に関連する問題の正答率が目標値を大きく下回っている。 | 9年 | ○基礎となる知識・理解の正答率が低く、領域では「化学変化と物質の質量」「生物と細胞」に関連する問題の正答率が目標値を大きく下回っている。 |

### 3 課題の原因として考えられること

|    |                                                          |    |                                                 |
|----|----------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------|
| 4年 | ○既習の内容や生活経験をもとに根拠ある予想や仮説を立てる能力が低い。<br>○実験をただで終わってしまっている。 | 5年 | ○実験を行う際に、予想を立てて実験を行い実験結果から推論を進め、言語化する能力が足りていない。 |
| 6年 | ○目に見えないものを想像する力や思考力が低い。                                  | 7年 | ○基礎問題における知識が定着していない。                            |
| 8年 | ○文章を読み取る読解力が低いことや基礎基本の知識・理解が定着していないため、全体的に正答率が上がらない。     | 9年 | ○文章を読み取る読解力が低いことや基礎・基本が定着していないため、全体的に正答率が上がらない。 |

### 4 課題解決のための方策

|    |                                                              |    |                                                             |
|----|--------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------|
| 4年 | ○予想や仮説を立てたうえで、実験を行い、結果をもとに考察する力を養う。                          | 5年 | ○授業内で推論し、言語化する時間を単元全体で設ける。<br>○振り返りを児童自身の言葉で説明できるようにする。     |
| 6年 | ○授業で思考場面を増やし、全員が考えられるような小さなステップで実施する。<br>○モデルを活用し、目に見える形にする。 | 7年 | ○基礎問題を取りこぼさないための知識の定着を反復して演習を図る。                            |
| 8年 | ○スモールステップで知識・理解の反復練習を行う。また、文章問題の時間を多く設定し、問題文から現象を整理する力をつける。  | 9年 | ○スモールステップで知識・理解の反復練習を行う。また、文章問題の時間を多く設定し、問題文から現象を整理する力をつける。 |

## 1 定着状況についての概要

|           |                                                        |           |                                                                           |
|-----------|--------------------------------------------------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------|
| <b>6年</b> | ○学年の8割以上の児童が正答率70%を超えている。しかし50%を切る児童もいて二極化している。        | <b>7年</b> | ○全ての項目で目標値と全国平均正答率を上回っている。                                                |
| <b>8年</b> | ○リスニング(内容理解・英文の聞き取り)、語彙の知識・理解、並べ替え英作文、英文の読み取りが目標値を超えた。 | <b>9年</b> | ○選択問題については内容理解、文法問題共に正答率が高くなっている一方で、自分の意見を述べるものや、文法事項に関する英作文については目標値より低い。 |

## 2 具体的な課題

|           |                                             |           |                                              |
|-----------|---------------------------------------------|-----------|----------------------------------------------|
| <b>6年</b> | ○短い物語の概要をとらえる問題、英文を聞いて目的地までの道順を書く問題の正答率が低い。 | <b>7年</b> | ○書くことの正答率が低く、英作文を正確に書くことに課題がある。              |
| <b>8年</b> | ○場面に応じて書く、情報に基づいて書く、3文以上書く英作文に課題が見られる。      | <b>9年</b> | ○授業で扱った文法事項を活用して独力で作文することや自己表現をすることに課題が見られる。 |

## 3 課題の原因として考えられること

|           |                                              |           |                                                                         |
|-----------|----------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------|
| <b>6年</b> | ○英文を聞いて、それを理解してから作業するという活動に慣れていない。           | <b>7年</b> | ○英作文を正確に、自分の力で作成する経験値が不足しているため。                                         |
| <b>8年</b> | ○既習事項を用いて、授業で扱ったことのない場面や状況に応じて英文を書く経験に課題がある。 | <b>9年</b> | ○スピーチ等の原稿作成時に iPad の翻訳機能を活用している生徒が多くいるため、文構造を理解できておらず、自力で作文ができないと考えられる。 |

## 4 課題解決のための方策

|           |                                                          |           |                                                                  |
|-----------|----------------------------------------------------------|-----------|------------------------------------------------------------------|
| <b>6年</b> | ○Teacher Talk を増やして、児童の英語の聞き慣れを増やす。またそれを踏まえて取り組む活動を設定する。 | <b>7年</b> | ○英単語や熟語等の語彙の習得と、文構造の理解を帯活動で行う。                                   |
| <b>8年</b> | ○既習事項を用いて、パターンプラクティスや多様な場面に応じたアウトプット活動を充実すること。           | <b>9年</b> | ○自己表現活動において iPad などの使用は最低限に抑え、自力で書く機会や話す機会を帯活動や日々の練習に取り入れる必要がある。 |